



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

「お陰さまカルマ ③」

四諦八正道したいはっしょうどうの講義を受けたのは、ブッダが初めて真理を説いた聖地サールナートである。

最初は仏教の大学者のご自宅で受ける予定であったが、急遽チベット仏教ニンマ派国際仏教研究所に変更になった。この研究所は1958年チベットからインドに亡命し米国で活動していたタルタン・トゥルク・リンポチェが創設したものである。

ここの本堂の仏伝壁画が素晴らしい！ いわゆるチベット画のような毒々しい原色の壁画ではなく、欧米風の描写で淡い色彩で描かれている。特に気にいったのは、ブッダの王子時代の絵である。それはアジャンター石窟寺院に描かれた蓮華手菩薩をモチーフにしたものである。サールナートの根本香積寺こうしきくには、日本人画家が描いた仏画があるが、それとは趣が異なる。

さて、ホールで待機していると大学者がやってきた。

仏教僧が恭しく出迎えた。ご高齢のため車椅子を使用している。僧が介助して着座された。わが輩は日本の碩学中村元先生を想起した。

大学者の紹介をしておこう。

ご尊名はラーマシャンカラ・トリパティである。1929年生まれだから90歳になられる。仏教はインドからチベットに伝えられたが、現在チベット語からサンスクリット語に再翻訳出版する作業が進められている。その事業に貢献されたのがラーマシャンカラ先生である。

ベナレスには有名な大学が二つある。バナーラス・ヒンドゥー大学とサンスクリット大学 (Sampurnanand Sanskrit University) である。先生は後者の大学で研究されてきた。パドマ・シュリー (文化勲章) を受けられた。ちなみにわが敬愛する故F名誉教授もこの大学で研究された。ひよっとしたらお二人は懇意だったかもしれない。

ところでラーマシャンカラ先生は仏教徒なのか。

噂によると先生は仏教徒に改宗したとのことである。

先生はインド中央部マディア・プラデーシュ州のソーラプルのバラモン階級に生れた。だからサンスクリットは得意とするところである。パーリ語仏典にも精通しておられる。バラモンには顔の彫りが深いアーリヤ人傾向がみられるが、わが輩の印象ではわれらと同じモンゴル系統に近いように思えた。どのような質問にも丁寧にお答えになると聞いていたので、

わが輩は恐れることなく疑問を投げかけた。

原因には結果がある。原因である父母がいてわが輩という結果がある。わが輩と妃が原因となって結果たる愚息韋駄天がいる。つまり結果には原因がある。ならば、「原因の原因の原因の原因は何ですか？」

先生は即座に答えた。

「ない」

原因の原因の原因を探っていくと、無限遡及^{むげんそきゆう}に陥る。つまりいつまでたっても結論に達しないのである。ヒンドゥー教理論では、その原因を大きな神（創造主）を持ち出してきて解決する。大きな神さまが、この世界や人間を造ったというわけである。実に明解である。

講演の中でひとつ理解できなかつたことがある。

「ロウソクの炎は自然に消える」

結果は“自然に”消える、ということらしいが、その真意が分からなかつた。わが輩は毎朝仏壇に灯明をあげてから出勤する。ロウソクは燃え尽きれば消える。あたりまえのことだ。

わが輩の解釈では、炎が消えないためには燃え尽きないロウソクがなくてはならない。そのようなロウソクは存在しない。したがって永遠の炎もない。比叡山根本中堂に1200年間続く「不滅の法灯」があるが、僧たちが灯明の芯や菜種油をつぎたし“相続”しているにすぎない。

建物（根本中堂）も人間（僧）も不滅ではない。自然の摂理によって消滅するものである。故に結果は自然に消える。在るものは消えるのである。

ラーマシャンカラ先生、わが輩の理解は正しいだろうか。

われらが聴講したのは2月9日（土）である。ところが10日後に入滅された。光栄なことにわが輩は最期の講義を受けることができた。

先生は真正の仏教徒になられたが、ときに神さまの名を唱えていた、と聞いた。“大きな神”は否定したが、“小さな神さま”までは拒まなかつた。大学者の人間的な側面を垣間見たように思えた。